

「もっと知りたい！」という思いをもち、主体的に探究する子供の育成
— 探究して、考えを深める場面を中心に—

1 ねらい

本校では、昨年度、『やってみよう』という思いをもち、主体的に探究する子供の育成」を研究テーマに、努力点推進を行ってきた。高針小学校の地域素材を基に授業の流れを見直し、子供たちは知識や情報を整理・分析しながら問いになりそうなことを見付けることができた。見付けた問いの中から課題を決定し、解決しようと様々な方法を試す姿が見られた。また、教師もどのように、子供の活動に寄り添い伴走するとよいか子供たちの様子を見ながら考えてきた。その中で、できない子供の支援をしようと、どうしても教師が解決方法を示してしまったり、子供たちに向かってほしい方向を提示してしまったりすることがあった。

そこで、今年度は子供たちが、見付けた課題を解決に向けて取り組む場（探究）と、周囲の人からアドバイスをもらう場面（他者評価）を中心に研究を行っていく。子供たちが「もっと知りたい！」という思いをもって探究できるように、教師の支援の仕方を再度見直していきたい。また、各教科へ取組を広げ、各教科に合わせたよりよい伴走法の獲得を目指していきたい。そのために、全体会を教師の情報共有ができる場とできるように小グループで話し合い、教師同士も互いに高め合うことができるようにする。

以上のことを踏まえ、授業改善を行い、よりよい環境を整えることで、子供たちが「もっと知りたい」と主体的に探究することができるのではないかと考える。

【プロジェクト型学習とは】

必要に応じて多様な学習形態をとり、子供の自己選択・自己決定に基づいて進める学習



【今年度の研究の重点】

- プロジェクト型学習を行う時間を「たかばり探究タイム」と称して、学習展開を工夫する。今年度は特に「探究」「他者評価」を重点に置き、授業を考える。
- 「教える」のではなく、「伴走する」教師の関わりを意識する。伴走の仕方は、例えば子供が探究しやすいように様々な本を準備したり、探究したものに「朱書き」を入れたりするなど、伴走の仕方を考えていく。
- 子供自身が今、何の学習をしているのかを分かるように、「たかばり探究学習カード」を使用して見える化する。

2 授業の運用

① 教科について

生活や総合など、どの教科で実践を行ってもよい。

② 組織について

学年で実践を行う。学年で実践を振り返り、各学年で情報交換を行うことで、よりよい伴走法の獲得や、悩みの共有・解決などができるようにする。年2回の努力点全体会にて、進捗状況を伝え合う。

③ 伝え合い・つながりについて (他者評価)

低学年→学級内のペアやグループ

中学年→他学年 (3・4年生)

高学年→外部の人

上記のように、年間の中で、探究したものを伝えたり他の人からアドバイスをもらったりする。ただし、目安なので様々な場面につながれるとよい。

④ 掲示物について

各学年の掲示板を使用し、探究の様子を掲示する。

活動の様子が分かるように、写真を使用したり、説明の言葉を書いたりする。

- ・ 6月24日 (火) までに → 学年の単元名
- ・ 10月17日 (金) までに → 掲示板の半分
- ・ 2月19日 (木) までに → 掲示板の最後まで保護者に向けて、「たかばり探究学習」の様子を伝えていく。

<学年掲示板>

努力点タイトル	○年 単元名
たかばり探究学習	

3 年間計画

月	日	曜日	内 容
4	17	木	努力点全体会 (テーマの設定、たかばり探究学習の学習計画)
4~5			探究タイムの計画
5	15	木	努力点全体会 (年間計画の検討)
6	16	月	努力点推進委員会・学年研究会
7	10	木	努力点推進委員会・学年研究会
9	8	月	努力点推進委員会・学年研究会
10	6	月	努力点中間報告会 (前期の課題と成果)
11	13	木	努力点推進委員会・学年研究会
12	11	木	努力点推進委員会・学年研究会
1	29	木	努力点推進委員会・学年研究会
2	12	木	努力点最終報告会 (1年間の取組について)
3	2	月	努力点推進委員会 (来年度に向けて)

4 今後の予定

4月中

- 各学年で、今年度取り組んでいくテーマを選定する。
- 「探究」の場面で活用できる関係機関・人物の選定を、可能な範囲で行う。校外学習や出前授業の計画をする。

5月9日 (金) までに

- 年間指導計画の形式は自由、A4 1枚にまとめたものを辻まで
- 5月15日 (木) の時間を使い、各学年で立てた学習計画を発表し、全体で共有し合う。お互いに意見を出し合い、よりよい計画としていく。
- 6月から授業ができるように準備していく。